



地域連携における大切な取組のひとつ

～障がいのある方と触れ合う～

校長 田村 稔



「多様な方々が携わる中で豊かな教育は実現される」というのが私の考えです。そのため、当校の学校経営の2本柱を「対話」と「地域連携」としています。しかし、一言に「地域連携」と言っても、その内容や方法は多岐に渡ります。地域の歴史や自然・文化、人々の暮らしといった地域そのものについて学ぶ、あるいは地域の多様な方々から学ぶという、すぐにイメージできるでしょう。それに加えて、私は地域の多様な方々と同じ場所にいるのを当たり前と感じられる環境づくりも重視したいと考えています。「多様な方々」を、自分とは違った考え方や見方、感じ方をする方、違う生き方をする方と言い換えてもいいかもしれません。自分と違うと感じる方々（例えば、LGBTQ+や障がいのある方々など）の目には、この社会はどのように映っているのだろうかということに思いをさせ、そして、それらの方々と積極的に触れ合い、その方々から学ぼうとする姿勢。このような姿勢の土台は、同じ場を共有することで獲得できるのではないかと思います。

ところで、左の3冊の絵本は、いずれも障がいのある方を題材にしたもので、私が衝撃を受けた、あるいは読む度に涙が出てしまう本です。この本での障がいのある方を取り巻くまなざしは、何と美しく、温かで優しいのでしょうか。1、2冊目は障がいのある方の強さも感じられます。3冊目の『はせがわくん きらいや』には周囲のジレンマも同時に感じられます。赤裸々でそれもまたすごい。

障害者手帳や療育手帳を持った人が身近にいないとしても、いわゆる「健常者」と接する中でも多かれ少なかれ似たような体験をしたこと、あるいはこの先似た体験をするであろう子は多いと思います。そんなときに、障がいのある方々や「マイノリティ」と言われる方と関わっているという経験は、子どもたちにとって、人間形成やものの考え方を自ら育てる上で大変重要なことになると考えています。

さて、この度、羽茂にあるサウスクラブ様から子どもたち向けにパンの販売をしていただけることになりました。普段はパン製作に勤まれている障がいのあるスタッフ様を当校にお招きして、パンを販売していただくという企画です。この企画では、保護者の了承を得た子どもたちが、障がいのある方とやりとりをしてパンを購入します。保護者の皆様には『子ども向け サウスクラブのパン販売のお知らせ』を配付いたしました。ご協力いただける場合には、あらかじめ注文書を学級担任にご提出していただくことになります。詳細は案内チラシを御覧ください。

2学期には、他にも乳幼児とその保護者を対象にした子育て教室「お出かけ支援センター」（主催：小木子育て支援センター様）も9月5日に開催する予定です。休み時間には子どもたちの飛び入りも歓迎していただけます。子どもたちは乞うご期待！

上から『どんなかんじかなあ』中山千夏 作 自由国民社（校長室にあります）、
『さっちゃんのみまほうのて』たばたせいいち 作 偕成社（図書室にあります）、
『はせがわくん きらいや』長谷川集平 作 ブッキング（校長室にあります）

校長室には『妖怪大百科』とか『妖怪大図解』といった怖い本もあるよ（ともに、水木しげる著）。子どもたちは遊びに来てね。

あいまいな考えを言語化する子どもたち



p 4 c を本格的に学校経営方針の柱に据えて1年と5か月。1学期の末に子どもたちのp 4 cを参観していて、「ああ、ついにここまで来たか」と感じ入ったことがありました。きちんと形になっていない曖昧な考えを、曖昧なままで表現する子どもを何人か見かけるようになったのです。「ちょっとよく分からないんだけど・・・」「今の議論に関係ないかもしれないんだけど・・・」「今思いついたんだけどさ、なんかね・・・」「もしかして、これって〇〇ってことなんじゃない?」「はっきりとは言えないんだけど、この世界は、ただただ広い。(この詩からは)広いところから何かが生まれるってイメージが浮かぶ」などなど。

難しい問題に対し、答えを見つけようと子ども同士で練り上げることの難しさを、私は学級担任時代によく味わっていました。例えば、4人グループで話し合っているとき、端から見ていると活発に意見交換しているように見えても、いざそのグループに入って話を聞いてみると、特定の子が正しいことを言って、他の子が「それでいいです」と同調するという姿。あるいは、学級全体で固まった意見の発表会になってしまっているという姿。これらを一概によろしくないというつもりはありません。そのような姿が学習によっては必要な場合もあるからです。しかし、いつもそればかりだと「正しい答えを言わなくちゃならない」と思え、「こんなこと言ったら変だと思われるかな」「間違ったら恥ずかしいから黙っていよう」と考え、発言を控えてしまうことにならないかと思うのです。

私は「練り上げる」とは、互いに曖昧な考えを出し合って、みんなでそれを積み上げ形にするというイメージをもっています。前述の赤泊小の子どもたちは、まさにそのイメージが具現化されたものでした。学級の他の子どもたちを信用しているからこそ、曖昧な考えを何とか言語化して発言できたのだと思います。「分からないことでも友だちと対話することで形にできる」という自他(社会)に対する信頼、さらに言えば学びに対する信頼。教室での曖昧な発言の出現は、その場のセーフティと、思考の言語化力の高さを表すバロメーターになるのかもしれない。

p 4 c では、発言していない子もしっかりと頭の中で考えているので、発言量の多少でその子の学びを評価しないという考え方があります。確かにその通りだと思います。誰も「今考え中で、もうちょっとで考えが固まりそうだから待ってて」、あるいは「もう!考えれば考えるほど分からなくなっちゃう」ということもあるでしょう。頭の中が混沌として、とても言語化なんてできないこともあるでしょう。それはそれでいいのです。ただ、それでも、自分が今考えていることを言語化して表現することが、他の子どもたちの学びに貢献できるかもと考え、曖昧な考えを言語化しようと懸命にチャレンジする子どもたちに大きな拍手を贈りたいと思うのです。そして、友だちの曖昧さを引き受け、さらにそこに自分の考えを積み上げ形にしようと奮闘する子どもたちを限りなく愛おしく思うのです。

2学期の主な予定

*9月の詳細な予定は学校だより『かやの木』(7/19 発行)をご覧ください。

9月 1日(金) 夏休み作品展(～8日)	11月 2日(木) 遠足
6日(水) 学校運営協議会	9日(木) 市小学校音楽発表会
11日(月) 給食試食会	10日(金) 赤泊小学校研究発表会
12日(火) PTA総務会	17日(金) 就学時健康診断
15日(金) 集金日	22日(水) PTA総務会
27日(水) 市小学校親善陸上大会	12月 1日(金) 集金日
28日(木) 〃 (予備日)	学習参観・学級懇談会
10月 3日(火) マラソン記録会	12日(火) 個別懇談会①
4日(水) 〃 (予備日)	13日(水) 個別懇談会②
14日(土) PTA奉仕作業	21日(木) 2学期給食最終日
16日(月) 集金日	22日(金) 2学期終業式
21日(土) 文化祭(作品展・学習発表会)	23日(土) 冬休み(～1月7日)
23日(月) 文化祭の振替休業日	

赤泊小学校ホームページをどうぞご覧ください。

